

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900127		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム 京都伏見の家 1号館		
所在地	京都市伏見区深草西浦町2丁115		
自己評価作成日	平成25年9月25日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2690900127-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京都市の既存グループホームと比べ利用料が安く生活保護の方でも入居できます。また利用のしやすさや介護の質を充実していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に作られた「その人が地域の中で自分らしく生きていけるように私たちは支援します」と謳う理念を引き継ぎ、新しい管理者のもとに新任職員の多い中、利用者の様々な思いの実現に向けて力を合わせ取り組んでいます。管理者は支援の礎となる学ぶ機会として毎週勉強会を開き、職員の疑問や提案をもとに現場で役立てられるよう職員と共に考え実践に繋げています。運営推進会議は多くの地域代表や家族の出席を得て開催し、参加者の意見などからテーマを設け、利用している薬局から講師を招いて薬について話してもらったり、地域交流を深めるためのきっかけ作りについてアドバイスをもらう等、参加者から得られた意見は利用者支援や運営に活かせる有意義な会議となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が地域の中で自分らしく生きていける様に私たちは支援します。この理念を実践しています。	理念は玄関やリビングに掲示し、誰もが意識できるようにしています。利用者が地域の中で長年暮らしてきた生活習慣が継続出来るように会議等で話し合い、行き詰った時には理念に立ち返り、その人らしさを優先した支援となるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのつながりが出来る様催し等の参加に努力している。又、色々な方と話をしながら日常生活を送っている。	自治会に加入し、役員や運営推進会議などで情報を得て地藏盆や祭りに参加しています。近くの教会からクリスマスの歌の訪問があったり、カラオケクラブの来訪など、ボランティアの関わりも育まれてきています。散歩時には出来るだけ交流できるようにとの思いで挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報を提供交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況をプリントレ会議の席上で出席者上で出席者の皆様に意見を述べてもらい向上にいかしている。	運営推進会議は、地域の知見者や自治会長、民生委員など多くの地域代表や利用者と家族の参加を得て隔月に行われています。事業所の通信で利用者の様子を知ってもらい、職員研修の報告の中から参加者の質疑で活発な意見交換があったり、地元の理髪店の利用提案がある等、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の入居も有り行政との連携などは常にとっている。	運営推進会議の議事録を持参し情報交換をしたり、市から研修情報が入り職員の参加方向で検討しています。生活保護の受給者の更新時の手続きなどでも市の福祉課に出向き事業所の様子を伝える機会を持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	完全とは言えないが内部、外部の研修などでケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束について職員会議などで、言葉による行動の制止など具体的な事例をテーマに話し合い職員理解に繋がっています。出入り口は安全のため施錠していますが、外出への要望には状況を見て出かけたり話し合うなど、利用者の思いに沿うようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	完全とは言えないが内部、外部の研修などでケアの実践に取り組んでいる。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で後見人の利用や日常生活自立支援事業の利用をされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分説明を行い理解をもらい納得されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ていると思う。運営推進会議の席上で報告等を行っている。	家族の面会時には利用者の状況を伝えると共に、出来る限り意見を聞くようにしていますが、家族からほとんど意見が出てこない現状です。意見が出ない事から、ばらく休止している家族会や毎年行っていたアンケートの再開に向けて検討をしています。	アンケートの実施や家族会の再開などを検討されていますので、それが実現し多くの意見が聞かれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて職員の意見や提案をきいている。	職員会議では事前に意見を聞いたり、全員が一言は発言するように促し、意見が出やすくなっています。利用者の寿司が食べたいとの要望に対して回転ずしの外食企画が提案され実施の方向で検討するなど、出された意見をサービスに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況などを把握して給与等の改善を考慮してくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の受講を進めトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あまり出来ていないが研修等で知り合い交流につながった事はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	接する時間を多くし、安全、安心を基に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ありのままを伝え家族の方の不安や要望を受け止め、一つ一つ理解していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態をよく観察する。本人と家族の要望を把握しサービス内容を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している家族と考えている。共に生活する関係を理解して頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人家族共に話し合える関係を目指す。その上で本人を支えていく関係を築く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪ねて来られた友人、知人との関係継続の支援に努める。入居者と友人知人との関係がうまくいくように支援する。	友人知人の来訪があり、利用者の居室で気兼ねなく面談出来るように配慮したり、寛いでもらえるようにしています。自宅を見に行きたいという要望などにも応え、昔なじみの店への買い物などを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士仲良く暮らせるように支援する。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の相談も乗っていただける様に心がけます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活している家族と考えている。共に生活する関係を理解して頂く。	利用者や家族から入居までの経過や意向を聞いたり、従前の事業所からの情報、主治医からも情報を得たうえで、独自のアセスメント用紙に記録し、意向の把握に繋げています。入居後には介護記録に基づいて利用者から直接聞いたり、日常の会話から思いを引き出すなど利用者の声を職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりその人の暮らしきた年月の事を傾聴するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態等充分な観察をする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン、モニタリングの把握に努める、変化する様子を的確にとらえ、関係者と話し合いケアプランを作成する。	介護計画は、聞き取った利用者や家族の意向を基に職員間で検討し作成しています。職員は日々の記録でモニタリングを行い、3か月に一度評価し随時の見直しに繋げています。更新時に合わせてサービス担当者会議を行い、事前に聞き取った医師や看護師の意見も反映して介護計画を見直すとともに、再アセスメントを行い状況の変化に対応しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を忘れずにする、職員間で情報を共有しながら計画の見直しに活かす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	H24,11月より事業所の多機能化が新設され、ニーズに応じて支援し取り組んでいる。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に自治会を通じて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合わせてかかりつけ医の受診や往診に対応している。	入居時には主治医を選べることを伝え、従前のかかりつけ医への受診は家族が行い、状況によっては事業所で支援しています。訪問看護師による毎週の健康管理と共に、協力医への受診を3か月に一度支援し、状況によっては随時往診を受けています。緊急時については、事前に話し合った内容に基づいて対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25年5月より、週1回、月4回の看護職員が訪問している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の病院との連携はできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と早い段階から話し合いをしている、重度化した時のバックアップの関係は結んでいます。	事前に家族から聞き取った緊急時や終末期への思いに基づいて対応しています。今年に入って2名の方の看取りの機会があり、医師と家族、事業所も含めて話し合いを重ね、終末期への思いや意向も繰り返し家族に聞き支援しています。医師や看護師によるバックアップ体制を整え、職員は多くを学びながら看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアル化してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回おこないます、消防との関係も常に持っている。	年2回昼夜を想定した避難訓練を行い、夜間想定での訓練では消防署の立ち合いを得ています。出火を想定した消火や通報、避難訓練を行っています。地域の方々には文章や口頭で伝え、運営推進会議では予告と報告をしています。地域の避難場所を確認し職員に伝えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシー確保に努めている、プライバシーを傷つけないよう声掛けしながら対応している	プライバシーや言葉使いについて毎月の会議後に勉強会を設けて学び、互いに注意し合うようにしています。職員は利用者を尊重した対応を心がけています。馴れ合いなど不適切な対応があれば、管理者から直接注意するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でもない事でもじっくり聞き、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを把握し支援している、又、一人一人に合ったペースで声掛けしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	めりはりのある身だしなみを支援している、くつろぐ時、外出時その人と話し合いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しくしていただけるように支援している、その人と職員と一緒に準備、片付けをしている。	昼と夜は弁当で対応し、みそ汁とご飯をホームで作っています。もやしの根取りや皮を剥いたり、下膳や洗い物などは利用者に携わってもらっています。月に2回程度は利用者に希望を聞いて食事作りをしたり、おやつ作りを楽しんでいます。正月にはおせち作りが企画されたり、年一度は本社からウナギが届き利用者は楽しみにしています。職員と一緒に食事をする機会はありませんが、体制も整い利用者と食事を作る機会を増やすよう話し合っています。	食事は利用者にとって大きな楽しみであり、検食の職員と一緒に食べる機会を持てるよう検討されては如何でしょうか。共に食卓を囲み、食事の内容が話題になる等、会話が弾むのではないのでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた分量でその日の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕、口腔ケアをしています、自力で出来る人と出来ない人の把握をし、その人に応じた口腔ケアを行っている。		

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立を目指しリハビリパンと使用の方は排泄時刻を調べ誘導する事により排泄の失敗を少なくするよう声掛けし支援している。	支援が必要な方は排泄表をもとに利用者の状況に合わせて声を掛け、失敗がないよう心がけています。退院後オムツから布の下着へ改善した利用者もおり、意欲的な生活を取り戻されたり、また夜間にはポータブルトイレの使用で失敗を無くすなど、其々に応じた工夫をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は声掛けにより摂って頂いている。運動は散歩に行ったり、室内にて全員でラジオ体操、歩行運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴で気持ち良く過ごしてもらっている、あまり入浴を無理強いせずにその日の体調等を考えながら支援している。	入浴は午後からを基本とし、週3回を目途に支援しています。大まかに日は決めています。希望があれば毎日でも入浴ことができ、利用者の要望に応じています。利用者の声に応じてミカンの皮を入れるなど楽しんでもらっています。希望に合わせて同性介助で対応し、拒否が見られる場合には時間や日を変えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何事も強制せずに自由に暮らしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いように管理できている、薬の状況については症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やテレビ鑑賞の他、歌を歌うことが好きで毎日CD等を使い歌っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく外出の機会が有れば支援しているが充分とは言えない、家族にも協力して頂いて外出しています。	天気が良ければ重度の方でも出来るだけ散歩に行けるよう心掛け、何人かに分かれて近くの公園などに出かけています。初詣やドライブで桜、アジサイや紅葉を見に嵐山や宇治などに出かけています。また、希望に応じて個別に衣類の買い物などに行ったり、家族の協力を依頼することもあります。	

グループホーム京都伏見の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度のお金は施設で預かっています、希望に応じてお金を使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人に必ず連絡しています、本人の要望も充分聞くようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間づくりはできている、不快や混乱を招かないように配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	一面が窓で明るいリビングでは、利用者の希望を聞きながら机の配置などに工夫をし、利用者と共に作った作品を飾っています。日々居室を含めて清掃に努め、利用者の声を反映しつつ換気や湿度に配慮し、居心地の良い空間づくりを心掛けています。玄関前で利用者と花を育て利用者が季節を感じられるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいとき、気の合った者同士で楽しく過ごせるように居場所作り出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室もその人らしく部屋作りをしている一人ひとりの使い慣れた物や好みの物を持ち込んでもらい居心地良く過ごされている。	クローゼットやベッドが設置されている居室は、入居時には使い慣れたものを持って来てもらうよう声を掛けています。利用者や家族と相談し、ダンスやテーブル、テレビなど持ち込まれた家具を住み慣れた自宅に近い配置となるよう心掛けています。また、ギターや琴など趣味の道具や職員から贈られた誕生日カード、手作りの作品などが飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりは出来ている、一人ひとり安全に自立した生活が送れるように工夫し支援していく。		